

SYOHEI ニュース 令和5年1月

年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

世間では久しぶりに行動制限のない年末年始でしたが、皆さんはどのようにお過ごしになりましたか？

新型コロナウイルス感染症につきましては「5類への見直しを検討」との報道が活発になっておりましたが、ついに岸田首相が「原則としてこの春」との具体的な時期を示したことで、当医療圏で新型コロナ対応の中心的な役割を担ってきた総合水沢病院でもwith コロナに対応する準備を進めようとしています。

さて、その総合水沢病院の建替え問題に端を発し長年答えが出ていなかった奥州市立医療施設の将来像については、医療施設をまちづくりの拠点と捉える新市長の下で、市のプロジェクトとして協議・検討を重ね、広報おうしゅうお知らせ版 12月号に掲載した「地域医療奥州市モデル」を市民に提案するところまできております。

これまでに市地域医療懇話会及び市議会全員協議会で医療・介護関係者や議員から意見を徴したほか、市内の5地区を回り開催している市政懇談会の懇談テーマとし、多くの市民から多角的な意見をいただいておりますが、今後、それらのご意見を踏まえてブラッシュアップし、令和5年度の経営強化プラン策定へと繋げていく予定です。

それらの状況は、今後も紙面等でお伝えします。

結びに、これから寒さの本番を迎えますが、奨学生の皆さん、家族の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

奥州市病院事業管理者
朝日田 倫明



岩手県内の新型コロナ感染の状況

1月25日現在の新規感染者数は21,816人、累計で223,646人、死者数は134人増えて累計で553人です。岩手県内では、11月には2度目の月間3万人を超え、12月は初の4万人超えの46,878人/月、死者数は149人/月と過去最高になりました。1月の感染者数は減少傾向ですが死者数は過去最高を記録する勢いです。

年度	2年度計	3年度計	4年度										合計
月	2年度	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月25日	合計
件数	621	17642	9353	7096	3336	16568	36524	17465	12222	34126	46878	21816	223646
死者数	30	47	8	6	5	13	54	30	11	66	149	134	553

年代別感染者数（第6～第8波比較）

	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
第6波 R4.4月	2013	1708	1146	1548	1351	707	428	207	166	79	0	9353
比率	22%	18%	12%	17%	14%	8%	5%	2%	2%	1%	0	100%
第7波 R4.8月	5511	4285	4946	5640	5456	3918	3002	1886	1258	622	0	36524
比率%	15%	12%	14%	15%	15%	11%	8%	5%	3%	2%	0%	100%
第8波 R4.11月	4992	6234	3373	4890	5444	3149	2360	1514	1326	842	2	34126
比率	15%	18%	10%	14%	16%	9%	7%	4%	4%	2%	0%	100%
第8波 R4.12月	6951	7100	4636	6783	7274	4717	3487	2342	2189	1399	0	46878
比率	15%	15%	10%	14%	16%	10%	7%	5%	5%	3%	0%	100%

奥州水沢に春を告げるくくり雛

くくり雛は「押し絵」の技法で作られた雛人形のこと、水沢地方独特の呼び名です。

方言で綿を布でくるむことを「くくる」ということから「くくり雛」と呼ぶようになりました。起源は江戸中期にさかのぼります。内裏雛のほか、歌舞伎やおとぎ話などを題材にしています。



現在も水沢の旧家に数点が現存しているほか「水沢くくり雛保存会」を中心にその継承がはかられています。

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和5年1月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

奥州市HPの中の「奥州市の先人」コーナー。今回は、医師『小野寺直助』をご紹介します。

消化器病の世界的権威：小野寺直助（1883年：明治16年～1968年：昭和43年）

小野寺直助は、医学の研究に努め、胃腸病をなおす方法として「小野寺式圧診法」を考案し、「九大（九州大学）に小野寺あり」とその名をとどろかせた人です。「胃運動曲線に関する研究」「圧診法に関する研究」は、医学会不滅の業績とされています。

小野寺直助は、奥州市前沢三沢家の侍医として代々医業を継いだ小野寺与三郎の四男として生まれ、旧制盛岡中学校、第一高等学校を経て、京都帝国大学、福岡医科大学に進んだ。

旧制盛岡中学校の同級生には、郷古潔（水沢出身・三菱重工社長）や金田一京助（言語学者・文化勲章受章）、野村胡堂（作家：銭形平次捕物控）などがある。



直助は、福岡医科大学を（九大）を卒業すると第一内科助手となり、間もなく内科研究のためドイツ、オーストリア、イギリスに留学し医学を学んだ。1916年に帰国すると九州帝国大学医科大学教授となり消化器関係を専攻した。1928年には付属病院長になる。

直助博士は九大在職時代から、若い医師に対し「もっと訓練された職業的カンを大切にせよ。」と、医療器具に頼りがちな悪い習慣を改めることを口ぐせとしていた。自ら治療面に応用できることは何でも研究開発に努め、臨場実験に役立てた。

1933年：昭和8年、「胃運動曲線照射法」で恩賜金記念賞（天皇からいただく賞）を授与され、一躍、第三内科の消化器病に関する権威者となった。

「胃運動曲線照射法」とは、患者に管を付けたゴム風船を飲み込ませ、これに空気を送り込み膨らませると、胃の中で風船が胃と同じ動きをする。このことを分析すれば胃の運動がわかるという方法である。胃カメラやレントゲンが発達していなかった当時ただただに大いに役立ち、胃ガンの早期診断ではレントゲンにひけをとらない成果を収めている。

また、各消化器疾患の補助診断法として「小野寺式圧診法」を考え、広く医学会に使用された。「小野寺式圧診法」は、直助博士があるマッサージ師から聞いた「内臓が病むところがあれば、ある個所を押さえると患者が痛みを訴える。」という話をヒントに研究した結果だといっている。これを伝え聞いたわが学会をはじめ各国から多くの学生、研究者や学者が教えを受けに九大を訪れ、弟子入りして「九大に小野寺あり」と全世界にその名をとどろかせた。

久留米大学学長・理事長、学会会議会員、医師実施訓練審議委員、日本学士院会員を務めたほか、1963年に文化功労者として表彰される。1968年：昭和43年86歳で他界した。